



本康歯科ニュース



「世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院めざして！

あなたのドライマウスチェックリスト

- □が渇く・・・ドライマウスを疑いますが、心因性・薬剤性の可能性もあります。唾液分泌検査を行い、実際に分泌機能が低下しているかどうかを評価する必要があります。
 - □が渇いて話しにくい・・・実際にかわいて話しにくい場合もありますが、脳血管障害や薬剤性、心因性による影響も考えられます。舌や口唇の動き、顎顔面領域の麻痺がないかを確認のうえ、内服薬や通院していた診療科での治療をよく確認すべきです。
 - 食事の時に飲み物が必要・・・ドライマウスが原因なのか、しっかり咀嚼ができていないことが原因か、どこかに麻痺があるからなのかなど、原因をつきとめなくてはなりません。試験食を食べていただいて、食べ方を評価する場合があります。
 - 夜間、水を飲むために起きる・・・実際にはドライマウスで目を覚ます患者さんは少なく、たいていは尿意を催してトイレに行く際にドライマウスを自覚するようです。夜間のドライマウスは、睡眠中の鼻閉に伴う口呼吸や、入眠前の睡眠薬、抗不安薬、抗うつ剤、抗アレルギー剤、抗コリン薬、胃薬による副作用などが原因している場合が多いため、それらに対する対応が必要です。
 - 舌がひび割れやすく、口角炎を起こしやすい・・・単に乾燥で舌炎や口角炎が生じている場合だけではありません。ドライマウスにより唾液が酸性になり、カンジダ症が進み、ひび割れや口角炎が出現していることも予測されます。
 - むし歯、歯周病になりやすい・・・口腔清掃が不良であるだけでなく、唾液減少に伴う自浄性の低下や、口腔内が酸性化してむし歯が進行している可能性も高いのです。ブラッシングやフロッシングはもとより、ガムやマッサージにて唾液分泌を促進し、自浄性を高めるか、保湿薬などを用いることにより、唾液の中和を促す必要があります。
- 以上一つでも該当項目があれば、ドライマウスの可能性があると考えます

お伝え
します！

今、知っておきたい

歯科ニュース



「高齢者にやさしい“とろみつき飲料”」

“とろみつき飲料”とは、飲み込みに不安がある高齢者などの誤嚥防止のためのトロリとした飲み物です。伊藤園の「とろり緑茶」や、コーヒーチェーン店でおなじみのコメダ珈琲の「とろみコーヒー」など、さまざまな種類があって誤嚥が心配な方でもいつもの味を楽しむことができます。特に注目したいのが、とろみ付き炭酸飲料です。東京医科大学大学院医歯学総合研究科と国立長寿医療研究センターの共同研究によると、とろみ付き炭酸飲料には飲み込みの機能を改善させる効果があるそうです。食品にとろみをつける「とろみ調整食品」はジュースやビールなどの炭酸飲料にも使用できるので、シュワシュワを楽しみながら飲み込みのリハビリもできそうですね！

